

作成番号:0310

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-310

内容:好奇心は高齢になると減退するのか？

出典:Curiosity across the adult lifespan: Age-related differences in state and trait curiosity.

PloS one. 2025;20(5);e0320600. pii: e0320600.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40333682/>

好奇心とは一般に新しい情報や環境を学び経験し探索したいという欲求で、個人の比較的安定した性格的な傾向としての「特性好奇心」と、特定の物事に反応して情報を得ようとする一時的な「状態好奇心」に分けられる。加齢に伴い「特性好奇心」、「状態好奇心」は減退するのかを、米カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の心理学者らが調査し、その詳細は、「PLOS One」に5月7日掲載された。

パイロット研究(対象者193人)と本研究(事前登録者1,218人)から成る2段階の研究を実施し、トリビア課題により状態好奇心を、アンケートにより特性好奇心を測定し、それぞれが加齢とどのように関連するのかを検討した。その結果、年齢は状態好奇心と正の関連を示す一方で、特性好奇心とは負の関連を示すことが明らかになった。これは、年齢が高くなるほど状態好奇心は強くなる一方で、特性好奇心は減退することを意味する。

加齢に伴い「特性好奇心」は減退する一方で、「状態好奇心」は強まることが明らかにされ、人は歳を重ねても、学びたいという気持ちを失うのではなく、学ぶ内容についてより選択的になるだけだと考えられる。

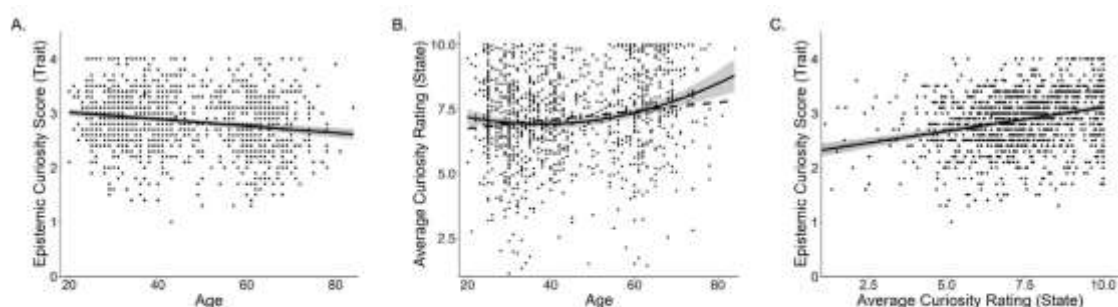


Fig 1. Relationships between Age, Trait Curiosity, and State Curiosity. Panel A shows the relationship between chronological age and scores on the Epistemic Curiosity Scale (ECS; trait curiosity). Panel B shows the relationship between chronological age and average curiosity ratings in the trivia paradigm (state curiosity), with the dashed line representing the linear relationship and the solid line representing the quadratic relationship. Panel C shows the relationship between average curiosity ratings from the trivia task and ECS scores.